

事業概要シート

事務事業コード	事務事業名称	事業区分	所属コード	担当課
501010307	景観形成作物栽培推進	一般	2200	農政課

事業開始年度	平成3年度
--------	-------

◆事業の性質分類

○	①ソフト関係事務事業(市民サービス)	④施設等の維持管理的な事務事業
	②整備関係事務事業	⑤行政の内部管理事務事業
	③施設等の建設事務事業	⑥経常的な事務事業

【注】公の施設の維持管理的な事業で指定管理者等の導入可能性があるものは①、④の両方が該当するため両方に○印を付ける。

◆事業の背景

市民ニーズ・地域課題	関係法令、関係計画等
農業施策の一環として、水田の持つ多面的な機能を利用して、やすらぎと潤いのある街づくりに寄与している。西山(棚田)の景観に溶け込んで訪れる市民や観光客並びにアマチュアカメラマンに大変親しまれて、秋の風物詩になっている。	長岡京市地域水田農業ビジョン

◆事業の目的

【事業の対象】・利益を受ける人 ・最終的に影響を及ぼすことを予定している人、もの 等	【事業の目指す成果】・左記の対象がどのような状態になることを目指していますか ・成果として具体的に何か 等
生産調整に参加している農業者(437人・平成20年度実績)、市民・観光客(不特定多数)	農業従事者の高齢化、後継者不足、農産物の価格低迷等による遊休農地の増加を食い止めるため、景観形成作物(コスモス)栽培を推奨し、農地性の維持を啓発するのが第一の目的である。さらに、付随効果として、田園風景による市民の憩いの場、交流の場としての活用、また、普段接する機会の少ない自然に触れ合う機会を提供し、豊かな心の育成に役立てる。

◆事業費の推移 (単位:円)			H19実績	H20実績	H21見込み	
収入	使用料・手数料					
	国支出金(補助率)					
	府支出金(補助率)					
	その他(京都府未来づくり交付金)			1,210,000		
	合 計		0	1,210,000	0	
支出	人件費(概算)	正規職員	従事人員(人)	0.05	0.05	0.05
			人件費	400,000	400,000	400,000
	嘱託・再任用職員	従事人員(人)				
		人件費				
	事業費(予算・決算)		2,003,586	2,022,980	2,174,000	
合 計		2,403,586	2,422,980	2,574,000		
収支	一般財源充当額		2,403,586	1,212,980	2,574,000	
	対象者あたり一般財源充当額		(母数:市民79,654人) 30/人	(母数:市民79,654人) 15/人	(母数:市民79,654人) 32/人	

事業費の詳細 (H21予算)	景観形成作物栽培委託料 1,702,000円・景観形成作物等種子代 467,000円
----------------	--

◆事業の内容			
事業の手法		事業の内容	
	直営	委託先 長岡京市農家組合長連絡協議会 ・転作事業の一環として、農地の適正な管理と市民への良好な景観を提供することを目的として、コスモスのは場の選定・種の配布・栽培指導・証拠写真の撮影などの進捗管理全般を委託している。	
	全部委託		
○	一部委託		
	指定管理		
	その他		
◆事業の類似			
市における類似事業について		なし。	近隣市町における類似事業について
			全国的に転作事務の一環として、景観形成作物栽培事業は実施されている。
◆過去の経過			
これまでの課題		左記の課題への、これまでの対応	
米価の安定と農業者の所得確保を目指し、確実な生産調整を実施すること。		「長岡京市地域水田農業推進協議会」において、地域における需要に応じた米の生産の推進を図るとともに、水田農業の構造改革の推進及び水田を活用した作物の産地づくりを推進している。	
◆現状の分析と課題			
①【必要性】・現在も市民に必要とされる事業か ・環境変化により事業目的は薄れてないか ・廃止した場合の影響は何か		②【市関与の妥当性】・市が行うべき事業か ・類似事業を行う他団体はないか ・市が行わない場合の影響は何か	
景観形成作物への作付けが誘導され、耕作放棄地の発生を未然に防ぐことができ、水田の持つ多面的な機能が維持され、地域内の良好な水田環境の保全に役立っている。		米の生産調整の推進に寄与するとともに耕作放棄地の発生を未然に防ぐことは市町村の責務である。また、遊休農地を減らして、地域の貴重な資源である水田を生産者等が有効活用できるよう環境整備することが行政に求められている。・類似事業を行う他団体はありません。・市が行わない場合、遊休・荒廃農地が増加し、環境悪化が懸念されます。	
③【手法の適正】・現在の手法は最も適正なものであるか ・手法を変更する可能性はないか ・変更する場合の課題は何か		④【その他の課題】・現在の内容で目的は果たせるか ・経費や時間等に無駄はないか 等	
望ましい生産構造の実現、需要に応じた生産体制の確立のためには、農家組合長連絡協議会の協力が不可欠である。		米の生産調整の推進のためには事業実施は不可欠であるが、内容の見直し(コスモス以外の作物の採用等)を検討する時期にきている。・農家組合長連絡協議会の全面協力のもと、経費や時間の節減を常に心がけている。	
◆今後の方向性と課題への対応			
方向性		【方向性の理由と想定される課題への対応】	
○	継続	担い手 長岡京市農家組合長連絡協議会 ・現在は西山の自然を背景にコスモスを植栽しているが、今後は本市の土地条件を生かした地域色豊かな転作作物栽培により取り組めるよう作物変更も含め、生産者等の意見を聞きながら進めていきたい。	
	拡大		
	縮小		
	統合		
	外部委託		
	廃止		
	その他		
所属長コメント(事業の展望)			
農業者・農業者団体の自主的・主体的な取り組みを支援するため、事業内容を充実させて、さらなる事業の発展を目指す。			